

2021/3/18

柏の景気情報(令和3年2月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（令和3年2月分）

○ 調査期間 : 令和3年2月25日 ~ 令和3年3月9日

○ 調査対象 : 柏市内130事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	130	92	70.8%
建設	32	19	59.4%
製造	35	23	65.7%
卸・小売	38	32	84.2%
サービス	25	18	72.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和3年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲43.4(前月水準▲54.9)となり、マイナス幅が11.5ポイント縮小した。

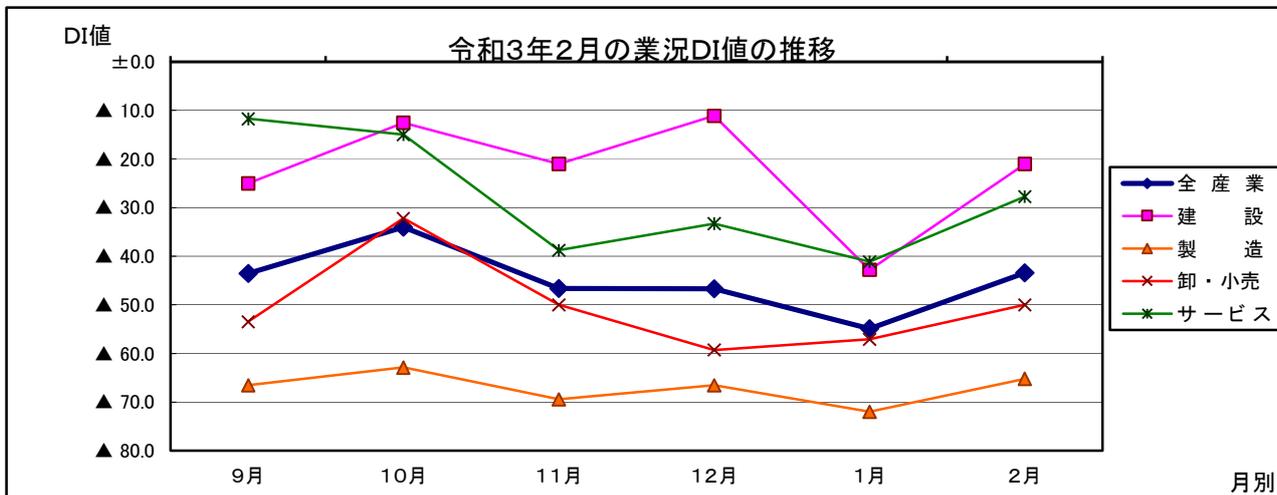
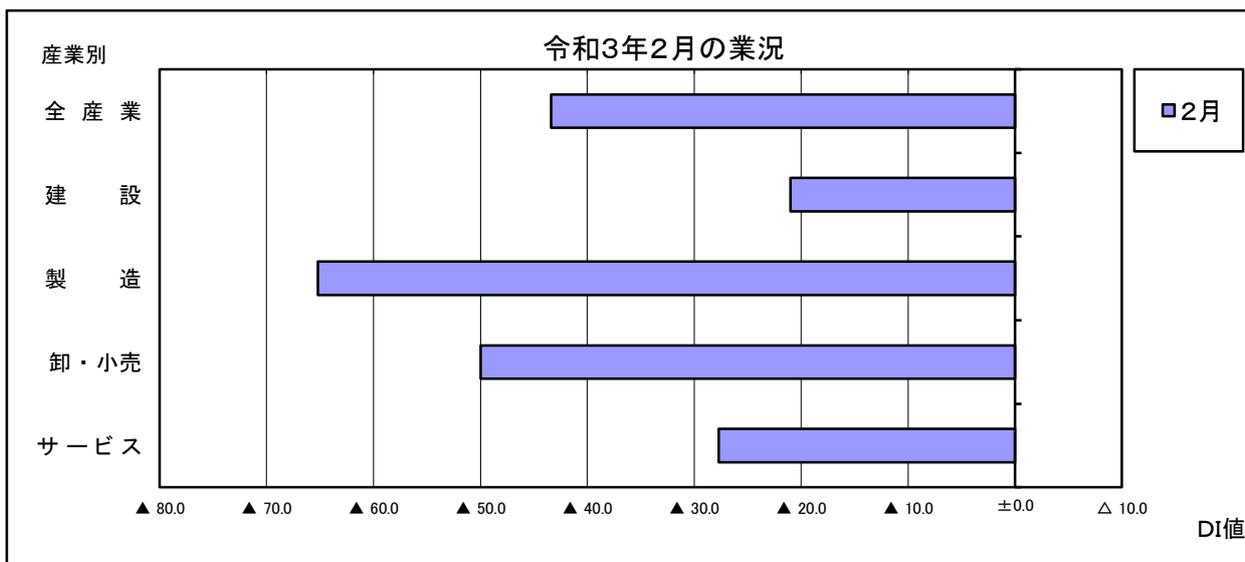
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.0(同▲42.8)、サービス業▲27.7(同▲41.1)、卸小売業▲50.0(同▲57.1)、製造業▲65.2(同▲72.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.0(前月水準▲37.3)となり、マイナス幅が12.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲26.0(同▲52.0)、卸小売業▲40.6(同▲57.1)、サービス業±0.0(同▲11.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲21.0(同▲14.2)である。

令和3年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲43.5	▲34.0	▲46.6	▲46.7	▲54.9	▲43.4	▲25.0(▲37.3)
建設	▲25.0	▲12.5	▲21.0	▲11.1	▲42.8	▲21.0	▲21.0(▲14.2)
製造	▲66.6	▲62.9	▲69.5	▲66.6	▲72.0	▲65.2	▲26.0(▲52.0)
卸・小売	▲53.5	▲32.2	▲50.0	▲59.3	▲57.1	▲50.0	▲40.6(▲57.1)
サービス	▲11.7	▲15.0	▲38.8	▲33.3	▲41.1	▲27.7	±0.0(▲11.7)



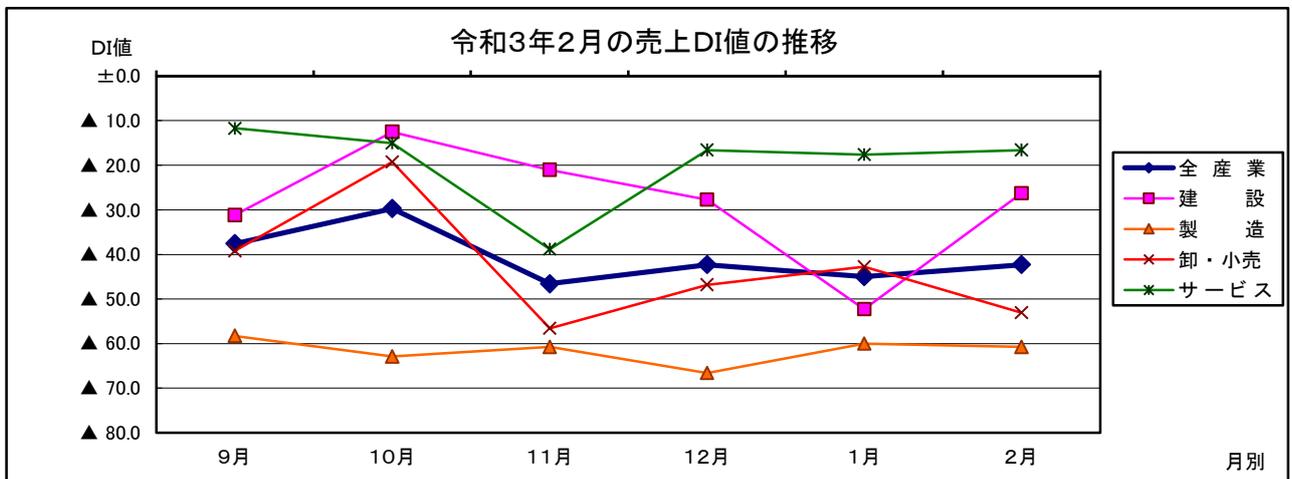
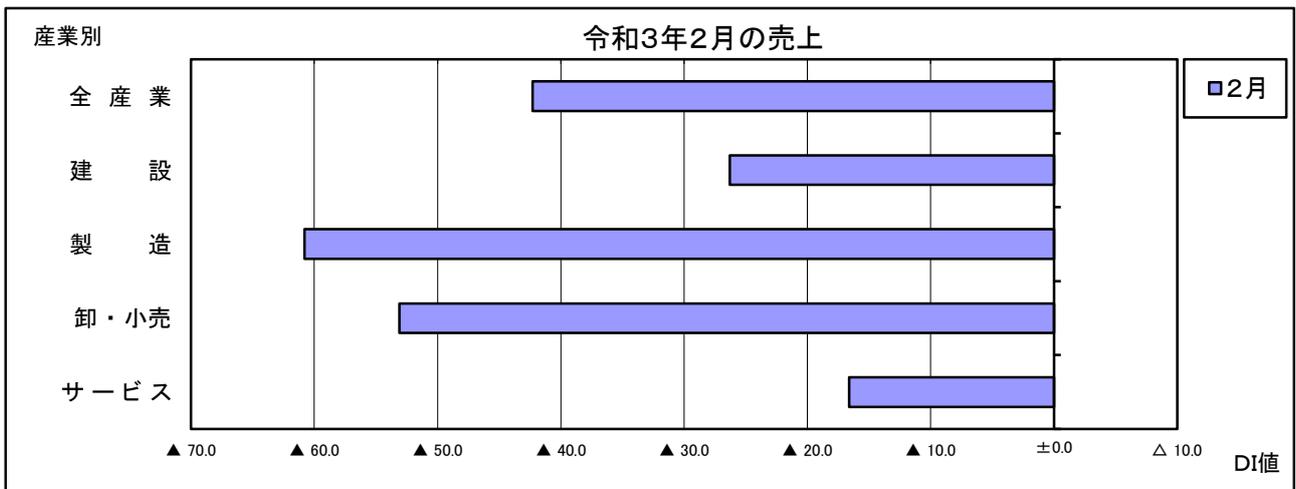
【令和3年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲42.3(前月水準▲45.0)となり、マイナス幅が2.7ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.3(同▲52.3)、サービス業▲16.6(同▲17.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲53.1(同▲42.8)、製造業▲60.8(同▲60.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.6(前月水準▲38.4)となり、マイナス幅が17.8ポイント縮小する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△16.6(同△5.8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.7(同▲42.8)、卸小売業▲34.3(同▲53.5)、製造業▲34.7(同▲48.0)である。

令和3年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲37.6	▲29.7	▲46.6	▲42.3	▲45.0	▲42.3	▲20.6(▲38.4)
建設	▲31.2	▲12.5	▲21.0	▲27.7	▲52.3	▲26.3	▲15.7(▲42.8)
製造	▲58.3	▲62.9	▲60.8	▲66.6	▲60.0	▲60.8	▲34.7(▲48.0)
卸・小売	▲39.2	▲19.3	▲56.6	▲46.8	▲42.8	▲53.1	▲34.3(▲53.5)
サービス	▲11.7	▲15.0	▲38.8	▲16.6	▲17.6	▲16.6	△16.6(△5.8)



【令和3年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲42.3(前月水準▲45.0)となり、マイナス幅が2.7ポイント縮小した。

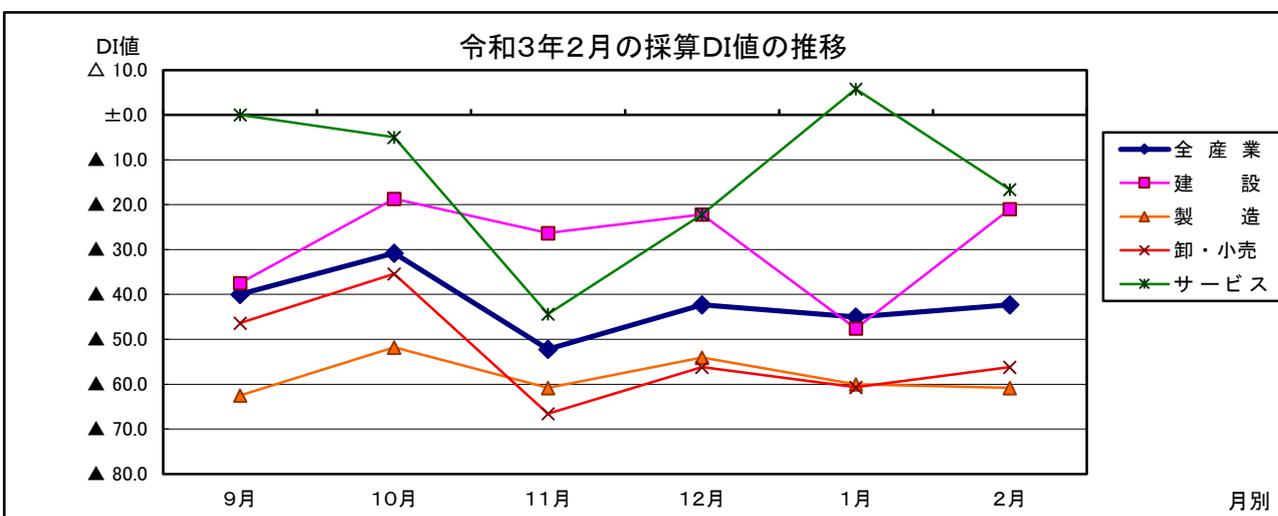
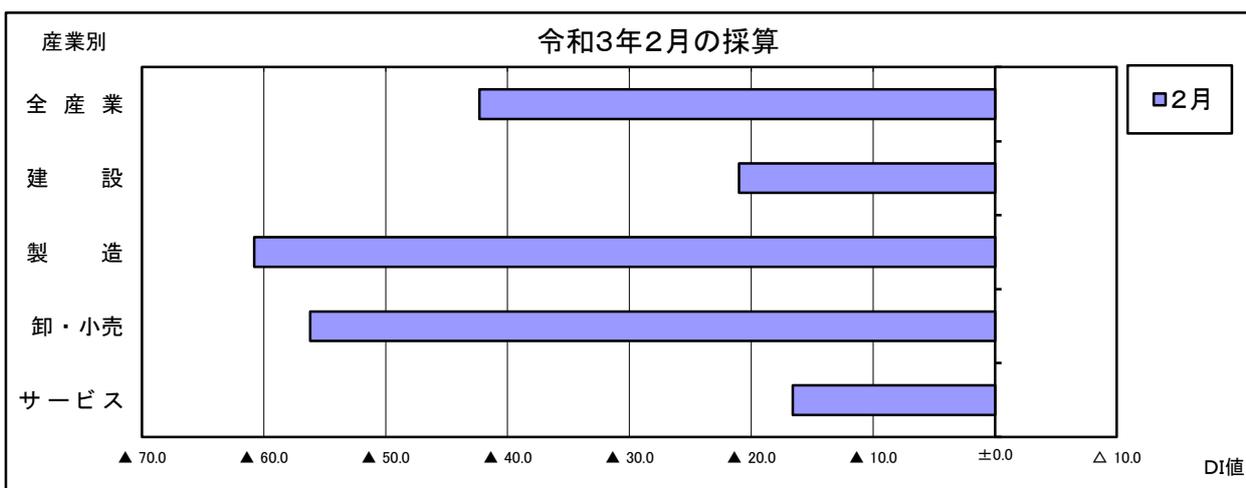
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.0(同▲47.6)、卸小売業▲56.2(同▲60.7)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲16.6(同△5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲60.8(同▲60.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.8(前月水準▲36.2)であり、マイナス幅が13.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△5.5(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.0(同▲38.0)、卸小売業▲31.2(同▲46.4)、製造業▲34.7(同▲48.0)である。

令和3年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲40.0	▲30.8	▲52.2	▲42.3	▲45.0	▲42.3	▲22.8(▲36.2)
建設	▲37.5	▲18.7	▲26.3	▲22.2	▲47.6	▲21.0	▲21.0(▲38.0)
製造	▲62.5	▲51.8	▲60.8	▲54.1	▲60.0	▲60.8	▲34.7(▲48.0)
卸・小売	▲46.4	▲35.4	▲66.6	▲56.2	▲60.7	▲56.2	▲31.2(▲46.4)
サービス	±0.0	▲5.0	▲44.4	▲22.2	△5.8	▲16.6	△5.5(±0.0)



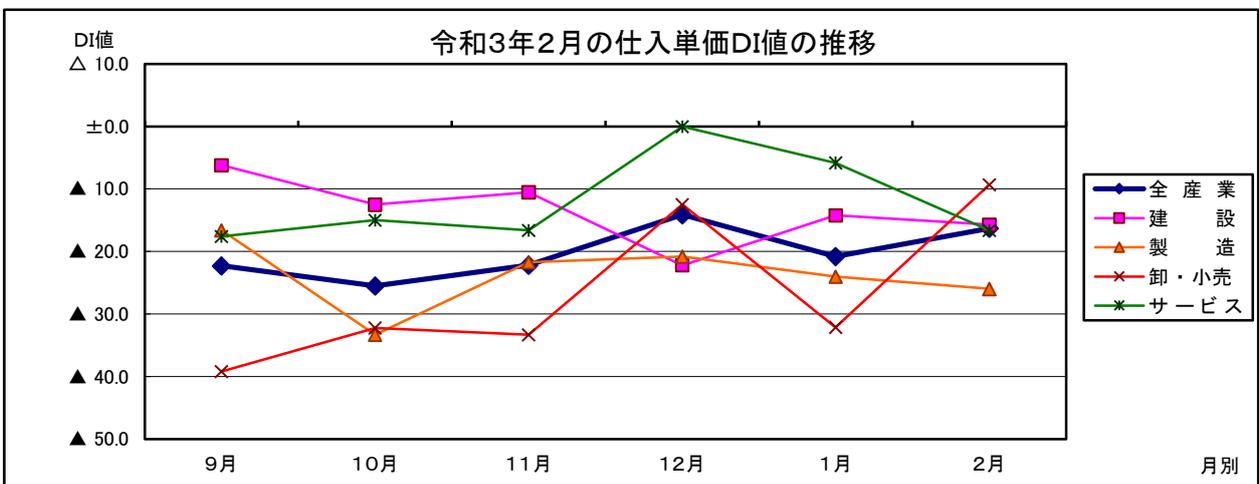
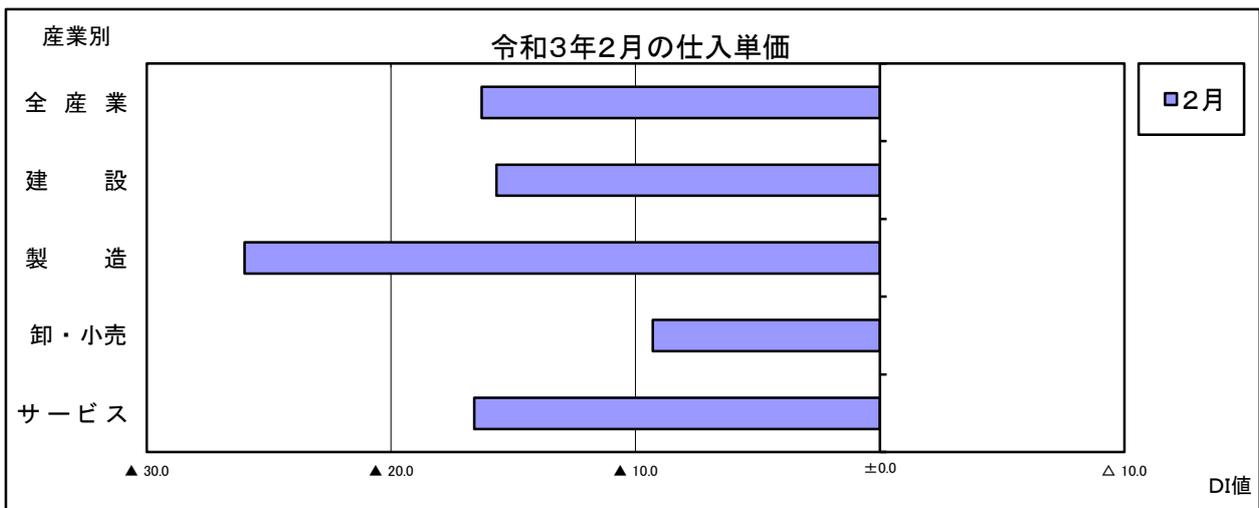
【令和3年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.3(前月水準▲20.8)となり、マイナス幅が4.5ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲9.3(同▲32.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲16.6(同▲5.8)、製造業▲26.0(同▲24.0)、建設業▲15.7(同▲14.2)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.2(前月水準▲19.7)となり、マイナス幅が4.5ポイント縮小する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲21.8(同▲32.1)、建設業▲10.5(同▲19.0)、製造業▲17.3(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲5.5(同±0.0)である。

令和3年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲22.3	▲25.5	▲22.2	▲14.1	▲20.8	▲16.3	▲15.2(▲19.7)
建設	▲6.2	▲12.5	▲10.5	▲22.2	▲14.2	▲15.7	▲10.5(▲19.0)
製造	▲16.6	▲33.3	▲21.7	▲20.8	▲24.0	▲26.0	▲17.3(▲20.0)
卸・小売	▲39.2	▲32.2	▲33.3	▲12.5	▲32.1	▲9.3	▲21.8(▲32.1)
サービス	▲17.6	▲15.0	▲16.6	±0.0	▲5.8	▲16.6	▲5.5(±0.0)



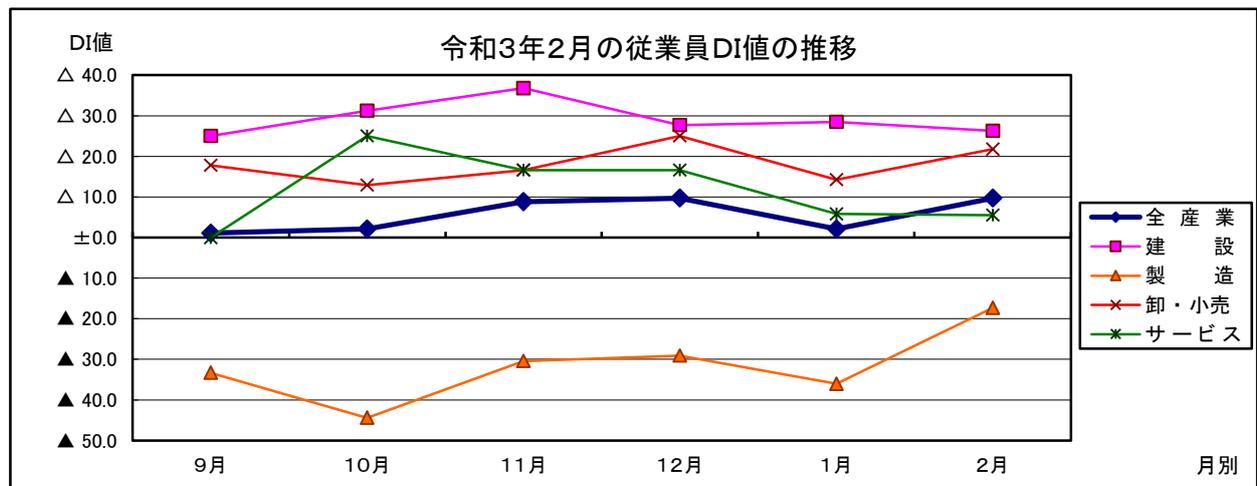
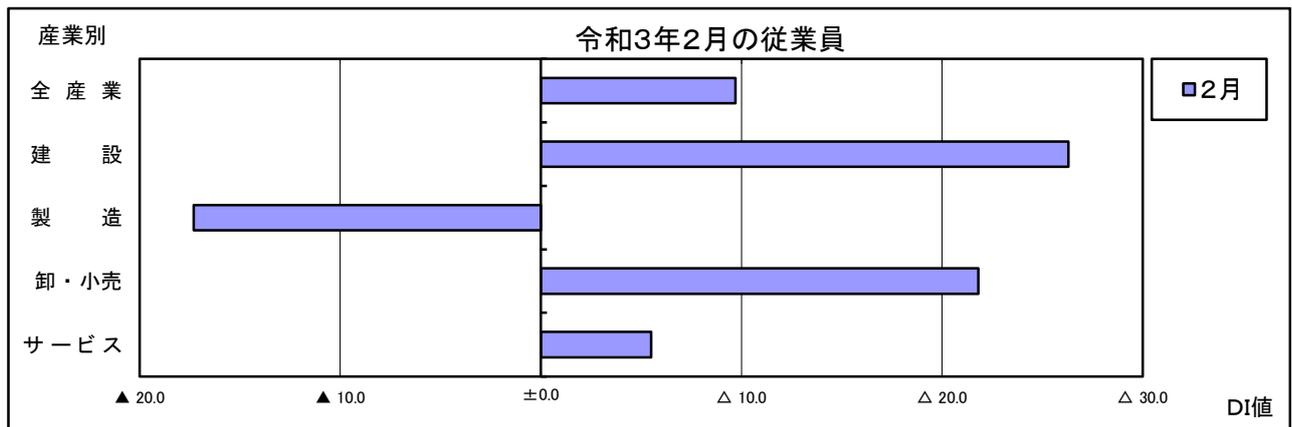
【令和3年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△9.7(前月水準△2.1)となり、プラス幅が7.6ポイント拡大した。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△21.8(同△14.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲17.3(同▲36.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業△26.3(同△28.5)、サービス業△5.5(同△5.8)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△4.3(前月水準△1.0)となり、プラス幅が3.3ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△15.6(同△7.1)、建設業△31.5(同△23.8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲26.0(同▲32.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲5.5(同△11.7)である。

令和3年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	△1.1	△2.1	△8.8	△9.7	△2.1	△9.7	△4.3(△1.0)
建設	△25.0	△31.2	△36.8	△27.7	△28.5	△26.3	△31.5(△23.8)
製造	▲33.3	▲44.4	▲30.4	▲29.1	▲36.0	▲17.3	▲26.0(▲32.0)
卸・小売	△17.8	△12.9	△16.6	△25.0	△14.2	△21.8	△15.6(△7.1)
サービス	±0.0	△25.0	△16.6	△16.6	△5.8	△5.5	▲5.5(△11.7)



【令和3年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.6(前月水準▲24.1)となり、マイナス幅が3.5ポイント縮小した。

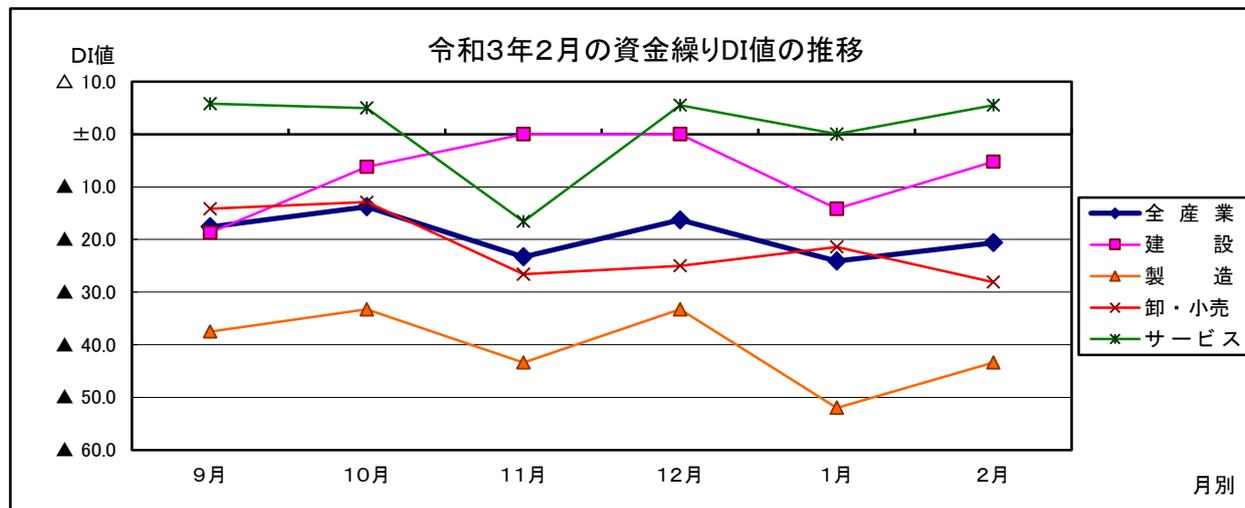
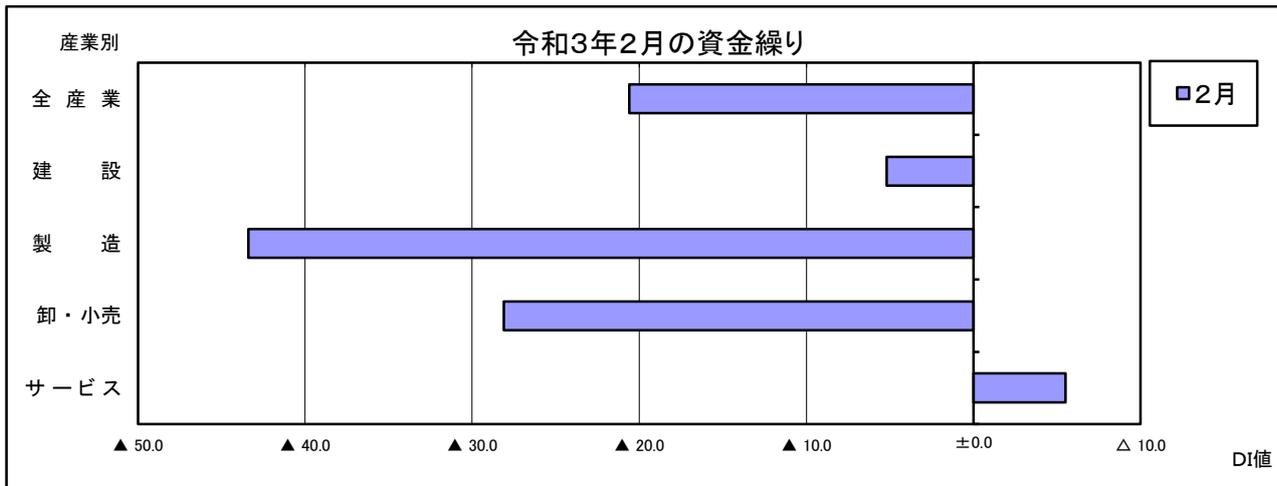
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△5.5(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲5.2(同▲14.2)、製造業▲43.4(同▲52.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲28.1(同▲21.4)、業▲±(同▲±)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.7(前月水準▲25.2)となり、マイナス幅が3.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲10.5(同▲19.0)、サービス業▲5.5(同▲11.7)、製造業▲34.7(同▲36.0)、卸小売業▲28.1(同▲28.5)である。

令和3年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和2年 9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲17.6	▲13.8	▲23.3	▲16.3	▲24.1	▲20.6	▲21.7(▲25.2)
建設	▲18.7	▲6.2	±0.0	±0.0	▲14.2	▲5.2	▲10.5(▲19.0)
製造	▲37.5	▲33.3	▲43.4	▲33.3	▲52.0	▲43.4	▲34.7(▲36.0)
卸・小売	▲14.2	▲12.9	▲26.6	▲25.0	▲21.4	▲28.1	▲28.1(▲28.5)
サービス	△5.8	△5.0	▲16.6	△5.5	±0.0	△5.5	▲5.5(▲11.7)



【令和3年2月の調査結果のポイント】

《全産業DIは3か月ぶりに全業種で改善。先行きは不透明ながらも、緊急事態宣言解除後の期待感は強い》

2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲43.4(前月水準▲54.9)となり、マイナス幅が11.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.0(同▲42.8)、サービス業▲27.7(同▲41.1)、卸小売業▲50.0(同▲57.1)、製造業▲65.2(同▲72.0)である。

緊急事態宣言の中、食料品は依然として好調、コロナ禍における不動産需要増加や、ソフトウェア関連の好調、広告代理業の新規案件増加による売上増加等コメントが寄せられ、全業種でDI値が改善する結果となった。しかし、テレワーク普及で家の小規模リフォームは増えるが、業務用製品の需要減少や、飲食店の売上減少等、低水準での推移が続く業界・業種もあり、景況感に温度差がある。

先行きDIは▲25.0(今月比+18.4)と回復を見込み、先行きは不透明な状況ながらも持ち直しへの期待感は強い。

【建設業】からは、「公共工事比率が高く、この時期は業績が落ち込むため心配してない。しかし来年度の発注が分からないものもあり不安」(塗装工事)、「先月に続き、仕入単価の値上げ連絡があった。世間情勢に準じているようだが、売上単価は上げられないので利益減」(とび)、「外国人の入国待ち」(土木工事)、「3月年度末までは仕事があるが、4月以降は不透明。ワクチン接種が始まったとはいえ、経済への打撃は大きい」(電気工事)、「畳縁や畳縁バッグ販売は減少」(畳)、「コロナ禍を契機に、4月から働き方改革を推進し週休2日の実現を進める」(一般土木建築工事)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「医療品容器に新企画が立ち上がれば売上が上昇するが、時期の確約がなく苦戦している」(プラスチック加工)、「家食が増加していたが、伸びに一服感あり。業務用商品は低迷」(畜産食料品)、「緊急事態宣言発出による飲食店の営業自粛、会食自粛が業務用需要を直撃し、売上は激減。宣言解除後の外食増加に期待」(酒類)、「オフィス、営業所の縮小やテレワークにより主力製品の需要が減少。設備投資に伴い、派遣増員予定」(鉄鋼)、「一部受注は増えているが、今までのマイナスをカバーできるほどではない。材料が期日通りに入荷せず、生産や納期に影響が出ている。少しでも従業員のモチベーションを上げようと昨年10月に見送ったベースアップを来月予定。チームワークを強固にしたい」(金属製品)、「コロナの影響により受注激減。スタッフ一同、いただいた仕事に感謝して頑張っている」(印刷)、「コロナ禍では自由な発想が重要で、その観点から若い人材がほしい」(印刷)、「2度目の緊急事態宣言により、少しずつ売上低迷。働き方改革を進める中、社員にはまだまだ労働時間によって賃金が支払われるといった意識があり生産性上がらず。成果主義の評価基準に大きく変えないといけない」(自動車付属品)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「売上が落ち、パレタインもイマイチ」(洋菓子店)、「遠方事業者からの受注が目立った」(建築材料卸売)、「コロナ禍で好成績が続く見込み」(各種食料品小売)、「衣料品が伸び悩み、食品中心の購買傾向は変わらず。イベントへの関心は高く、節分の恵方巻は昨年より好調。飲食店が閉店する20時以降はお客が増えているが、徐々に減少傾向」(大型小売店)、「宣言延長で、飲食店だけでなく物販店の買い物客も減少したまま」(各種商品小売)、「卸先の販売が滞り昨年比95%。量販店向け安売り商材が売上の大半を占めており、通販、輸出分野はまだまだ試行錯誤が必要」(農畜産物・水産物卸売)、「直売所部門は前年比増だがレストラン部門はマイナスで、トータルでは多少のプラスで推移」(各種食料品小売)、「組織変更による個々人の管理範囲の拡大、ならびにアルバイトが従事していた業務を自社パート、正社員で内製化し利益確保を遂行する」(百貨店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「マンションから一戸建てへ買替希望者が出ている」(不動産賃貸)、「年度末で、過去になく多忙な年に」(ソフトウェア)、「例年1~2月は売上が減少するが、新規案件が増えた事で好転。コロナを見越したビジネスモデルの変更、新サービス開始が急務で、制度融資等を利用しながら人員増加に着手したい」(広告代理)、「緊急事態宣言解除後の売上は以前の水準には戻らず、厳しい状況が続くと予測。感染者増加を繰り返すと店舗経営自体が難しくなるため、なんとか押さえ込みたい」(日本料理)、「事業承継のため事業計画通り社員を一人雇用。顧客数は変わらず、社員数は過剰気味に」(税理士)、「教室の座席間隔を空けて生徒を座らせた結果、1クラス増加し人件費増。保護者の安心感や塾の評判を考えると元の収容人数に戻すことは難しいが、収益は悪化してしまう」(学習塾)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲43.5	▲25.0	▲66.6	▲53.5	▲11.7
10月	▲34.0	▲12.5	▲62.9	▲32.2	▲15.0
11月	▲46.6	▲21.0	▲69.5	▲50.0	▲38.8
12月	▲46.7	▲11.1	▲66.6	▲59.3	▲33.3
1月	▲54.9	▲42.8	▲72.0	▲57.1	▲41.1
2月	▲43.4	▲21.0	▲65.2	▲50.0	▲27.7
見通し	▲25.0	▲21.0	▲26.0	▲40.6	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 42.3	▲ 20.6	▲ 42.3	▲ 22.8	▲ 16.3	▲ 15.2	△ 9.7	△ 4.3
建設	▲ 26.3	▲ 15.7	▲ 21.0	▲ 21.0	▲ 15.7	▲ 10.5	△ 26.3	△ 31.5
製造	▲ 60.8	▲ 34.7	▲ 60.8	▲ 34.7	▲ 26.0	▲ 17.3	▲ 17.3	▲ 26.0
卸・小売	▲ 53.1	▲ 34.3	▲ 56.2	▲ 31.2	▲ 9.3	▲ 21.8	△ 21.8	△ 15.6
サービス	▲ 16.6	△ 16.6	▲ 16.6	△ 5.5	▲ 16.6	▲ 5.5	△ 5.5	▲ 5.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 43.4	▲ 25.0	▲ 20.6	▲ 21.7
建設	▲ 21.0	▲ 21.0	▲ 5.2	▲ 10.5
製造	▲ 65.2	▲ 26.0	▲ 43.4	▲ 34.7
卸・小売	▲ 50.0	▲ 40.6	▲ 28.1	▲ 28.1
サービス	▲ 27.7	±0.0	△ 5.5	▲ 5.5

令和3年2月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲43.4に対し、「CCI-LOBO」が▲46.8で柏の方がマイナス幅が3.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲42.3に対し、「CCI-LOBO」が▲47.2で柏の方がマイナス幅が4.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲42.3に対し、「CCI-LOBO」が▲42.6で柏の方がマイナス幅が0.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.3に対し、「CCI-LOBO」が▲19.5で柏の方がマイナス幅が3.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△9.7に対し、「CCI-LOBO」が△4.2で柏の方がプラス幅が5.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.6に対し、「CCI-LOBO」が▲23.4で柏の方がマイナス幅が2.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。

【令和3年2月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設業	公共工事の比率が高いため、この時期は業績は落ち込むので心配はしていない。しかし、今年度コロナの影響で予定していた工事発注がなかった事があり、来年度も発注がわからないものも多く、不安である。	先行き不安	塗装工事業
	先月に続き、今月も仕入単価値上げの連絡があった。世間情勢に準じているようだが、売上単価は上げられないので、利益に大きく作用している。	仕入単価値上げ	とび
	外国人の入国待ち。	外国人の入国	土木工事業
	やはり、コロナ禍の影響は大きい。3月年度末までは仕事があるが、毎年の事ながら4月以降の先行きが不透明。コロナ禍もワクチン接種が始まったとはいえ、経済への打撃は大きいと思う。	先行き不透明	電気工事業
	畳工事は横ばい。緊急事態宣言の影響か、畳縁や畳縁バッグの販売は減少。	売上横ばい	畳工事請負・畳製造販売業
	今回のコロナ禍を契機に、4月から働き方改革を推進し、週休2日の実現を進める。	働き方改革	一般土木建築工事業
製造業	新型コロナの影響で落ち込んだ化粧品容器の受注が下げ止まったまま回復しない。医療品容器に新企画が立ち上げられれば売上は上昇するが、時期の確約がないので苦戦が続いている。	化粧品容器受注減少	プラスチック加工
	2度目の緊急事態宣言もあり、依然としてコロナ禍による多大な影響を受け、業績は悪化の一途を辿っている。	業績悪化	電子応用装置製造業
	新型コロナの影響により家食が増加していたが、伸びも一服感あり。業務用商品は低迷。	家食増加に一服感 業務用商品低迷	畜産食料品製造業
	緊急事態宣言発出による飲食店の営業自粛、会食自粛等が業務用需要を直撃し、売上は激減している。3月に宣言が解除され、外食増加に伴う売上増加に期待。	売上激減	酒類製造業
	最悪である。	業績悪化	かばん
	オフィス、営業所の縮小やテレワークにより主力製品の需要が減少。所定外労働時間(残業)が減少。設備投資に伴い、派遣増員予定。	主力製品需要減少 残業減少 派遣職員増加	鉄鋼業
	一部受注は増えているが、今までのマイナスをカバーできるほどではない。材料が期日通りに入荷せず、生産や納期に影響が出ている。少しでも従業員のモチベーションを上げようと昨年10月に見送ったベースアップを来月予定している。チームワークを強固にしたい。	材料の入荷遅れによる影響 給与ベースアップの実施	金属製品
	受注製作施工で成り立った業種の為、コロナの影響により受注激減。スタッフ一同、いただいた仕事に感謝して頑張っている。	受注激減	印刷業
	今後は「社会を元に戻す」のではなく、自由な発想と討論を繰り返しながら、道を開かなければならない。自由な発想という観点から、若い人材がほしいものである。	人材確保	印刷業
	2度目の緊急事態宣言の発出により、少しずつだが売上が低迷。大きな落ち込みはないがパッとしない。働き方改革を進める上で、社員がまだまだ労働時間によって賃金が支払われるといった意識があって生産性が上がらない。成果主義の評価基準に大きく変えないといけない。	働き方改革	自動車付属品製造業
卸小売業	1月同様、緊急事態宣言の影響か売上が落ちる。パレンタイムもイマイチだった。	売上減少	洋菓子店
	遠方事業者からの受注が目立った。	遠方事業者からの受注増加	建築材料卸売業
	コロナ禍における食品小売業は好成績が続くであろう。	業績好調	各種食料品小売業
	緊急事態宣言中のため、外出自粛で衣料品は伸び悩んでいる。食品中心の買い物傾向は変わらない。イベントへの関心は高く、節分の恵方巻などは、昨年よりも好調だった。飲食店が閉店する20時以降はお客様が増えていたが、徐々に減少傾向にある。	衣料品不調 食料品売上好調 イベント関連品好調	大型小売店
	宣言延長のため、飲食店だけでなく物販店の買い物客も減少したまま。	客数減少	各種商品小売業
	緊急事態宣言下ということでさすがに卸先の販売も滞り、昨年対比95%だった。量販店向けの安売り商材で売上のシェアを多くとっているため、実際の利益率は良くない。通年であれば飲食店向けの高利益商材が売れるところであるが、取り戻すのは難しい。代替として通販、輸出分野に軸足を置き始めたが、まだまだ試行錯誤が必要。	利益率の低下	農畜産物・水産物卸売業
	直売所部門は前年比を上回っているが、レストラン部門ではマイナスとなり、トータル的に多少のプラスで推移している。自粛の解除がカギとなる。	食料品小売好調 レストラン売上減少	各種食料品小売業
	組織変更による個々人の管理範囲の拡大、ならびにアルバイトが従事していた業務を自社パート、正社員で内製化し、利益確保を遂行する。	業務の内製化	百貨店
不動産賃貸業	マンションから一戸建てへ買い替え希望者が出てきている。コロナが原因かは不明だが、流れを見守りたい。	戸建て需要増加	不動産賃貸業
	年度末で、過去になく多忙な年となっている。	業績好調	ソフトウェア業
	例年、1月～2月にかけては年間でも売上が減少する月であるが、今期は新規の案件も増えたことにより好転。しかしコロナの影響はこの先も続くと考えられる。ビジネスモデルの変更、新サービス開始が急務である。制度融資などをうまく利用しながら人員の増加などに着手したい。	新規案件増加 ビジネスモデルの変換 新サービスの開始 制度融資の活用	広告代理業

【令和3年2月業種別業界内トピックス】

サービス業	緊急事態宣言解除後でも売上は以前の水準には戻らず、厳しい状況が続くことが予測される。また、感染者が上昇を繰り返すと店舗経営自体が難しくなってくるので、なんとかしっかりと押さえ込みたい。	先行きも売上減少見込み	日本料理
	事業承継のため事業計画通り社員を一人雇用。顧客数は変わらないため、社員数は過剰気味になる。	事業承継	税理士
	現在、新型コロナウイルス感染対策のため教室の座席の間隔を空けて生徒たちに座らせているため、教室の収容人数が落ちて効率が悪い状態で授業を行っている。本来は3クラスで済むところを4クラスに増やしているため、売上は変わらないのに例年よりも人件費が多くかかっている。今後このような収容人数であれば、トータルの収益は確実に悪化してしまうだろう。とはいえ、保護者の安心感や塾の評判を考えると、元の人数に戻すことは難しく、頭を悩ませている。	コロナ感染対策による経費増加	学習塾
	買い、売り共に増加。コロナの影響だと思う。テレワークや自粛で家に長くいる事で、部屋を広くしたい、家賃の支払いがもったいない等を理由とした買い意欲が増えている。売り物件は空家や相続による資産売却である。コロナによる断捨離の影響かと推測している。	コロナ禍による不動産需要増加	不動産管理業
	不景気でもレジデンス賃貸需要の底堅さを実感する、しかし、学生向け賃貸は苦戦。	学生向け賃貸苦戦	不動産賃貸・管理業

令和3年2月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図	 特に好調 DI ≥ 50	 好調 50 > DI ≥ 25	 まあまあ 25 > DI ≥ 0	 不振 0 > DI ≥ ▲25	 極めて不振 ▲25 > DI
-------	--	---	--	---	--

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 43.4	 ▲ 21.0	 ▲ 65.2	 ▲ 50.0	 ▲ 27.7
CCI-LOBO	 ▲ 46.8	 ▲ 24.9	 ▲ 44.8	 ▲ 45.8	 ▲ 63.0

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 42.3	 ▲ 26.3	 ▲ 60.8	 ▲ 53.1	 ▲ 16.6
CCI-LOBO	 ▲ 47.2	 ▲ 23.4	 ▲ 45.6	 ▲ 47.0	 ▲ 62.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 42.3	 ▲ 21.0	 ▲ 60.8	 ▲ 56.2	 ▲ 16.6
CCI-LOBO	 ▲ 42.6	 ▲ 19.8	 ▲ 40.2	 ▲ 43.0	 ▲ 61.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 16.3	 ▲ 15.7	 ▲ 26.0	 ▲ 9.3	 ▲ 16.6
CCI-LOBO	 ▲ 19.5	 ▲ 26.0	 ▲ 20.7	 ▲ 15.7	 ▲ 14.6

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 9.7	 26.3	 ▲ 17.3	 21.8	 5.5
CCI-LOBO	 4.2	 24.3	 ▲ 4.9	 9.6	 ▲ 3.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 20.6	 ▲ 5.2	 ▲ 43.4	 ▲ 28.1	 5.5
CCI-LOBO	 ▲ 23.4	 ▲ 3.9	 ▲ 21.6	 ▲ 22.7	 ▲ 40.7

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(2月速報)

調査期間：2021年2月9日～16日

調査対象：全国の337商工会議所が2,749企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、緊急事態宣言の影響続き、一進一退。先行きは、不透明感続くも、持ち直しを見込む

2月の全産業合計の業況DIは、▲46.8と、前月から+2.7ポイントの改善。中国向けの生産増が続く自動車関連やデジタル投資の増加を背景に需要が伸びている半導体・電子部品関連の製造業のほか、巣こもり需要により飲食料品や家具家電の売上が堅調な小売業が全体を押し上げた。一方、10都府県における緊急事態宣言の延長に伴う営業時間の短縮やG。T。Oキャンペーンの一時停止により、客足が落ち込む外食産業や観光産業では苦戦が続く。同業種でも扱う商材などにより好不調が分かれる状況もうかがえるほか、新型コロナウイルス感染対策のコスト増加による収益圧迫などもあり、中小企業の景気感は足元で鈍い動きが続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲39.3(今月比+7.5ポイント)と改

善を見込む。コロナ禍の収束が見通せない中、新たな借入への懸念や、雇用調整助成金の特例措置などの政策効果剥落後の資金繰り悪化、春の観光需要喪失を不安視する声は多く、先行きの不透明感から、中小企業においては慎重な姿勢を崩していない。一方、半導体・電子部品関連の生産増や巣こもり消費による下支えのほか、新型コロナウイルスによる感染抑制に期待する声も聞かれた。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全ての業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「土木工事を中心に公共工事の受注が多く、売上は改善。一方、技術者不足が慢性化し、自社の働き方改革を進めるうえで課題となっている」(一般工事業)

「今年度は新型コロナウイルス感染拡大前の受注によ

り売上を維持していたものの、来年度に向けた受注が激減しており、先行きが不安。さらに、民間工事の減少により、公共工事の案件に事業者が集中することによる競争の激化を懸念している」(管工事業)

【製造業】「巣こもり需要により、お取り寄せ商品の売上が好調。引き合いが鈍いB.T。B向けの新商品開発や新事業展開は当面見送り、B.T。C向けのネット販売に力を入れ、収益を確保していきたい」(水産食料品製造業)

「自動車メーカーの生産回復により、売上は堅調に推移している。一方で、急激な生産水準の引き上げから車載向け半導体の不足による生産調整が生じており、今後の業績への影響を懸念している」(自動車・付属品製造業)

【卸売業】「堅調な内食需要により、冷凍食品や加工食品の売上は増加しているものの、人件費や物流費の増加を販売価格に転嫁できず、採算は悪化」(農畜水産物卸売業)

「省エネに対応した空調システムの受注が伸び、売上は改善。ただし、海外の仕入れ先企業が新型コロナウイルスの影響

響から、工場の人数を削減して操業しているため、仕入れに通常の倍以上の時間を要しており、長期化すれば在庫管理に影響が出てくる」(建築材料卸売業)

【小売業】「堅調な『宅飲み』需要により、売上は改善。ただし、13日に東北地方を中心に発生した地震により、商品の破損や建物設備の故障が発生したため、現在は休業を余儀なくされている状況」(酒類小売業)

「イベントを店舗とオンラインの特設サイト上で開催した結果、オンラインの売上は好調だったものの、新型コロナウイルスの影響から来店客数が伸び悩んだ店舗の売上減少分までカバーできず、全体の売上は悪化」(百貨店)

【サービス業】「緊急事態宣言の対象地域ではないものの、書き入れ時である夜の時間帯の街の人通りが少なく、売上は前年同月比50%の悪化。自治体独自の補助金を申請し、資金繰りの改善を図る」(飲食店)

「ガス供給部門では、在宅時間の増加から住宅のガス使

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲56.5	▲30.7	▲68.3	▲51.2	▲52.5	▲67.8
10月	▲50.2	▲25.8	▲63.9	▲47.8	▲45.3	▲57.2
11月	▲45.8	▲26.8	▲54.1	▲39.0	▲41.5	▲56.1
12月	▲46.1	▲26.9	▲53.4	▲45.3	▲45.5	▲53.0
1月	▲49.5	▲27.1	▲48.5	▲49.0	▲49.5	▲64.7
2月	▲46.8	▲24.9	▲44.8	▲47.7	▲45.8	▲63.0
見通し	▲39.3	▲28.7	▲32.4	▲37.4	▲42.8	▲50.5

用量が増加しており、売上は改善。一方、地域の飲食店や宿泊施設では、ガス使用量が前年同月比60%と大幅に減少している」(生活関連サービス業)

柏の景気情報 (令和3年2月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

調査期間：令和3年2月26日～3月9日 調査対象：柏市内130事業所及び組合にヒアリング、回答数92件

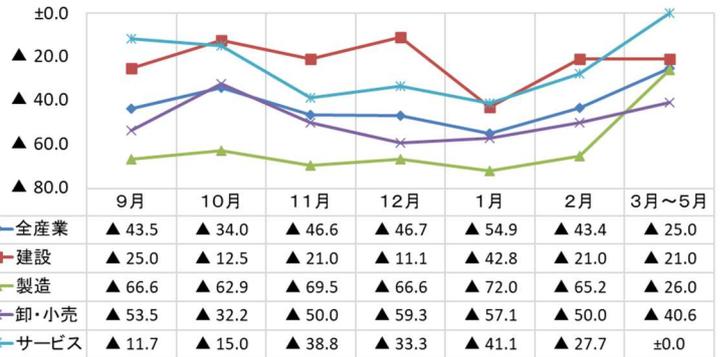
全産業DIは3か月ぶりに全業種で改善。先行きは不透明ながらも、緊急事態宣言解除後の期待感強い

2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲43.4(前月水準▲54.9)となり、マイナス幅が11.5ポイント縮小した。

緊急事態宣言の中、食料品は依然として好調、コロナ禍における不動産需要増加や、ソフトウェア関連の好調、広告代理業の新規案件増加による売上増加等コメントが寄せられ、全業種でDI値が改善する結果となった。しかし、テレワーク普及で家の小規模リフォームは増えるが、業務用製品の需要減少や、飲食店の売上減少等、低水準での推移が続く業界・業種もあり、景況感に温度差がある。

先行きDIは▲25.0(今月比+18.4)と回復を見込み、先行きは不透明な状況ながらも持ち直しへの期待感強い。

柏の景気情報・産業別業況DI



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



「公共工事比率が高く、この時期は業績が落ち込むため心配してない。しかし来年度の発注が分からないものもあり不安(塗装工事)、「先月に続き、仕入単価の値上げ連絡があった。世間情勢に準じているようだが、売上単価は上げられないので利益減(とび)、「外国人の入国待ち(土木工事)、「3月年度末までは仕事があるが、4月以降は不透明。ワクチン接種が始まったとはいえ、経済への打撃は大きい(電気工事)、「畳縁や畳縁バッグ販売は減少(畳)、「コロナ禍を契機に、4月から働き方改革を推進し週休2日の実現を進める(一般土木建築工事)



「医療品容器に新企画が立ち上がれば売上が上昇するが、時期の確約がなく苦戦している(プラスチック加工)、「食糧が増加していたが、伸びに一服感あり。業務用商品は低迷(畜産食料品)、「緊急事態宣言発出による飲食店の営業自粛、会食自粛が業務用需要を直撃し、売上は激減。宣言解除後の外食増加に期待(酒類)、「オフィス、営業所の縮小やテレワークにより主力製品の需要が減少。設備投資に伴い、派遣増員予定(鉄鋼)、「一部受注は増えているが、今までのマイナスをカバーできるほどではない。材料が期日通りに入荷せず、生産や納期に影響が出ている。少しでも従業員のモチベーションを上げようと昨年10月に見送ったベースアップを来月予定。チームワークを強固にしたい(金属製品)、「コロナの影響により受注激減。スタッフ一同、いただいた仕事に感謝して頑張っている(印刷)、「コロナ禍では自由な発想が重要で、その観点から若い人材がほしい(印刷)、「2度目の緊急事態宣言により、少しずつ売上低迷。働き方改革を進める中、社員にはまだまだ労働時間によって賃金が支払われるといった意識があり生産性上がらず。成果主義の評価基準に大きく変えないといけない(自動車付属品)



「売上が落ち、バレンタインもイマイチ(洋菓子店)、「遠方事業者からの受注が目立った(建築材料卸売)、「コロナ禍で好成績が続く見込み(各種食料品小売)、「衣料品が伸び悩み、食品中心の購買傾向は変わらず。イベントへの関心は高く、節分の恵方巻は昨年より好調。飲食店が閉店する20時以降はお客様が増えていたが、徐々に減少傾向(大型小売店)、「宣言延長で、飲食店だけでなく物販店の買い物客も減少したまま(各種商品小売)、「卸先の販売が滞り昨年比95%。量販店向け安売り商材が売上の大半を占めており、通販、輸出分野はまだまだ試行錯誤が必要(農畜産物・水産物卸売)、「直売所部門は前年比増だがレストラン部門はマイナスで、トータルでは多少のプラスで推移(各種食料品小売)、「組織変更による個人々の管理範囲の拡大、ならびにアルバイトが従事していた業務を自社パート、正社員で内製化し利益確保を遂行する(百貨店)



「マンションから一戸建てへ買替希望者が出ている(不動産賃貸)、「年度末で、過去になく多忙な年に(ソフトウェア)、「例年1~2月は売上が減少するが、新規案件が増えた事で好転。コロナを見越したビジネスモデルの変更、新サービス開始が急務で、制度融資等を利用しながら人員増加に着手したい(広告代理)、「緊急事態宣言解除後の売上は以前の水準には戻らず、厳しい状況が続くと予測。感染者増加を繰り返すと店舗経営自体が難しくなるため、なんとか押さえ込みたい(日本料理)、「事業承継のため事業計画通り社員を一人雇用。顧客数は変わらず、社員数は過剰気味に(税理士)、「教室の座席間隔を空けて生徒を座らせた結果、1クラス増加し人件費増。保護者の安心感や塾の評判を考えると元の収容人数に戻すことは難しいが、収益は悪化してしまう(学習塾)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲43.4に対し、「CCI-LOBO」が▲46.8で柏の方がマイナス幅が3.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。